

文学研究科日本語学日本文学専攻・博士前期課程 専門分野・教員一覧

■教授

富永 一登	博士（文学） ※文学研究科長 兼 日本語学日本文学専攻長
主な担当科目	●漢文学特論 ●漢文学演習 ●日本文学特別研究Ⅰ～Ⅳ
研究内容	中国古典文学、漢文学、特に『文選』（もんぜん）と古小説を中心に研究を進めている。『文選』では中国古典文学の表現の型を、古小説では古代人の想像力の根源を追究する。高校の漢文教材の編集にも取り組んでいる。

内田 誠一	博士（文学）
主な担当科目	●漢文理解演習 ●日本文学特別研究Ⅰ～Ⅳ
研究内容	中国古典文学（特に初唐の宋之問および盛唐の王維の詩文および版本を研究）；書法金石学（特に唐代の詩人に関連する石碑を研究）；短冊学（漢詩短冊を中心に「短冊」の書写形式・歴史・収蔵など多角的に研究）

江口 泰生	博士（文学）
主な担当科目	●日本語史特論 ●日本語史演習 ●日本語方言学特論
研究内容	日本語の構造を明らかにし、それが歴史的にどのように展開したかを研究している。特に音韻と文法の境界領域である形態音韻論分野に力を注いでいる。外国資料（特にロシア資料）・古辞書・方言資料などを利用して、現象の発見と説明に取り組んでいる。

大迫 正一	修士（芸術学）
主な担当科目	●漢字・語彙教育学特論 ●漢字・語彙教育学演習 ●国語教育学特別研究Ⅰ～Ⅳ
研究内容	実用性のない書体である「篆書」について、現在に至るまでの伝承の経緯が研究テーマである。またICT機器が主流の昨今にあり、手書き文化と日本中国の古典文学の涵養のために、初心者向けのテキストの研究を行っている。

大滝 一登	修士（教育学）
主な担当科目	●読書・読解教育学特論 ●国語教育課程実践研究 ●国語教育学特別研究Ⅰ～Ⅳ
研究内容	国語教育史のうち、戦後高等学校国語科の教育課程史が主たる研究テーマである。また、時代に応じた学習指導要領の変化を踏まえ、資質・能力を効果的に育成するための国語科授業の創出についても研究している。

川岸 克己	修士（文学）
主な担当科目	●日本語文法学特論 ●日本語音韻学特論 ●口頭表現実践研究
研究内容	日本語の助詞助動詞における二項対立現象に自己と非自己の対立の構造を見出し、そこから日本語の意味論的文法論的構造のみならず、日本語の目的論的な構造を分析、新たな理論の研究に取り組んでいる。

島田 大助	博士（文学）
主な担当科目	●近世日本文学特論A・B ●近世日本文学演習A・B ●日本文学特別研究Ⅰ～Ⅳ
研究内容	江戸時代に出版・成立した笑話本を中心に、話芸に関連する舌耕文学を研究している。日本笑話は中国笑話の影響を受けているため、中国で出版された笑話本及び笑話が収録される日用類書についての研究も行っている。

文学研究科日本語学日本文学専攻・博士前期課程 専門分野・教員一覧

谷口 邦彦	修士（芸術学）
主な担当科目	●書写教育実践研究 ●書道教育実践研究 ●国語教育学特別研究Ⅰ～Ⅳ
研究内容	書写書道教育に関する実践的な研究、おもに、授業づくり・授業改善に関わる学習者研究を中心に行っている。中学校国語科書写教科書の編集にも携わっている。

外村 彰	博士（文学）
主な担当科目	●近代日本文学特論A・B ●近代日本文学演習A・B ●現代文理解演習
研究内容	近代日本文学、とくに昭和十年代前後の詩歌・小説の精読をベースに、室生犀星や岡本かの子といった審美的文学の探究、埋もれた詩人の発掘、新たな評価付けを試みる地域文学研究、併せて当該領域の書誌・雑誌調査研究を行っている。

信廣 友江	博士（学術）
主な担当科目	●書写教育特論 ●書道教育特論 ●国語教育学特別研究Ⅰ～Ⅳ
研究内容	書道教育学、とくに学制頒布以降現代に至るまでの書教育に関わる制度並びに学校教育における書道分野の位置づけ、趣旨、教育内容の変遷を中心とする歴史研究を行っている。

古瀬 雅義	博士（文学）
主な担当科目	●古代日本文学特論A・B ●日本文学特別研究Ⅰ～Ⅳ ●古代日本文学演習A・B
研究内容	古代中世の日本古典文学を専門領域として研究している。特に『枕草子』『源氏物語』そして和歌について、章段・物語・和歌に用いられる表現と展開との関わりに注目して、考察を進めている。

宮岸 哲也	博士（言語文化学）
主な担当科目	●日本語学特別研究Ⅰ～Ⅳ
研究内容	言語類型論、対照言語学、日本語教育、特に授与動詞と授与補助動詞構文の類型論的研究、シンハラ語母語話者を対象にした日本語教育文法構築のための日本語とシンハラ語の対照研究、チベット・ビルマ語派ゾゾ語の記述研究を行っている。

■准教授

増田 知之	博士（文学）
主な担当科目	●日本文学特別研究Ⅰ～Ⅳ
研究内容	中国明清時代における書文化の発展・変容の実相について、文献資料のみならず法帖・墨跡などモノ資料をも活用した分析的研究を続けている。最近では、「帖学」から「碑学」へという書文化のパラダイムシフトについてより多角的な考察を試みている。

安田 容子※	博士（学術）
主な担当科目	●日本文化論特論A・B ●日本文化論演習A・B ●日本文学特別研究Ⅰ・Ⅱ
研究内容	近世を中心に日本絵画史及び人と動物の関係史を研究している。特に、地域にのこされた歴史資料を用いて、近世近代における地域間の文人交流や地域における蒐集家の位置づけ、地域に特徴的な生き物とのかかわりについて研究している。

※氏名横の「※」は研究指導の補助を示す。